

# 26年3月分 構造用集成材工場の荷動き・価格先行き動向調査1

1. 調査実施期間 平成26年 2月20日～ 26年3月10日

## 2. 調査実施方法

全国の構造用集成材工場に対し、アンケート調査票を送受することにより実施した。  
3月分の回答企業数は9社である。

## 3. 判断指数の算出方法

各調査項目について以下の方法でウェイト・ディフュージョン・インデックスを算出した。

Weight.D.I.(ウェイト・ディフュージョン・インデックス)={(「増加」の評価を行った回答の割合)×2+(「やや増加」の評価を行った回答の割合)-(「減少」の評価を行った回答の割合)×2-(「やや減少」の評価を行った回答の割合)}÷2  
したがって、この割合がゼロの場合はその増加と減少が等しいことを示し、プラスになるほど増加が多く、逆にマイナスになるほど減少が多いことを示す。

## 4. 調査結果の概要

### (1) ラミナ荷動き動向 Weight. D. I.

品目		26/3月	4月	5月
入荷動向	国産材	△ 14.3	△ 14.3	7.1
	外材	△ 12.5	△ 18.8	△ 25.0
在庫動向	国産材	7.1	7.1	7.1
	外材	6.3	6.3	0.0

国産材ラミナの入荷は3,4月の減少が5月にはやや増加に、外材は減少傾向で推移。  
国産材ラミナの在庫はやや増加傾向で推移、外材は3,4月のやや増が5月には横ばいに。

### (2) ラミナ購入価格動向 Weight. D. I.

品目	26/3月	4月	5月
国産材	14.3	△ 7.1	△ 7.1
欧州材	21.4	14.3	7.1
その他	—	—	—

国産材ラミナ購入価格は3月のやや強保合が4,5月にはやや弱保合に、欧州材はやや強保合で推移。

## モニターからのコメント

(ラミナ荷動き) ・スギラミナは順調に入荷。カラマツは原木不足により県内・北海道とも入荷状況悪く、在庫も少なく、今後の増加も見込めない。

・国産材が特に集まりにくくなって、生産したくても出来ない状態。在庫は、外材を多く買っているため国産材の不足分を外材で対応している。

・意図的にラミナ在庫を減らしている。

・需要に対し供給が追いつけず急騰したが、需要も減少してきたため、原木も入手しやすくなってきた。各製材所は生産量を維持することにより必然的にラミナ出荷量は増加すると見られる。外材は一時国産材の供給不足から需要が持ち直したが、市況の縮小徐々に進んでいるため、ここ数カ月においては在庫は若干増加傾向と考える。

・  
・

(ラミナ価格動向) ・カラマツラミナの3月価格は、やや上昇、4月以降も10～15%の値上げ要求。

・これから2nd QTRの話をしていくが、現地は上げで話をしてきそうな感じ。

・昨年4th, 本年1stは、ほぼ横ばいだが、高いレベルにあることに変わりなく、本年2thは更に値上がりしそう。

・需要減の影響からやや下落していくものと予想。

・輸入ラミナ価格はピークを維持。

・

## 26年3月分 構造用集成材工場の荷動き・価格先行き動向調査2

## (3) 構造用集成材荷動き動向 Weight. D. I.

品目		26/3月	4月	5月
生産動向	国産材	△ 21.4	△ 21.4	△ 21.4
	WW集成管柱	10.0	10.0	0.0
	RW集成平角	△ 10.0	△ 30.0	△ 10.0
	米マツ集成平角	0.0	0.0	0.0
	WW集成平角	0.0	50.0	0.0
出荷動向	国産材	△ 21.4	△ 21.4	△ 14.3
	WW集成管柱	0.0	0.0	0.0
	RW集成平角	△ 40.0	△ 40.0	△ 20.0
	米マツ集成平角	0.0	0.0	0.0
	WW集成平角	50.0	0.0	0.0

国産材集成材及びRW平角の生産は減少傾向で推移、WW管柱は3,4月の増加が5月には横ばいに、米マツ平角は横ばいで推移。

国産材集成材及びRW平角の出荷は減少傾向で推移、WW管柱及び米マツ平角は横ばいで推移。

## (4) 構造用集成材出荷価格動向 Weight. D. I.

品目	26/3月	4月	5月
スギ集成管柱	0.0	△ 12.5	△ 12.5
ヒノキ集成柱	16.7	16.7	0.0
ヒノキ集成土台	25.0	25.0	0.0
カラマツ集成土台	0.0	0.0	0.0
WW集成管柱	0.0	△ 12.5	0.0
RW集成平角	△ 12.5	△ 12.5	0.0
米マツ集成平角	—	—	—
WW集成平角	50.0	0.0	0.0
米ヒバ土台角	50.0	50.0	0.0
カラマツ集成平角	0.0	0.0	0.0

スギ集成管柱の価格は3月の横ばいが4,5月にはやや弱保合に、ヒノキ柱及び土台は3,4月の強保合が5月には保合に。

カラマツ土台は横ばいで推移。  
WW管柱は3月の保合が4月の弱保合を経て5月には保合に、RW平角は3,4月のやや弱保合が5月には保合に。  
米ヒバ土台は3,4月の強含みから5月には保合に。

## モニターからのコメント

## (構造用集成材荷動き)

- ・受注は2月に引き続き総体的に落ち着いてきた。繰り越し受注残も徐々に進んでいる。非住宅物件の受注もあり、ある程度仕事量を確保しているが、依然カラマツラミナが不足傾向で生産が減少しており、今後もカラマツラミナ入荷の大幅な改善は期待できず生産量は横ばい推移と見込む。カラマツEW中心に依然納期遅れが発生するなど出荷に影響。
- ・来月以降、日本のマーケットの需要によって生産状況は大きく変わると思う。現在は、フル生産が続いている状態。来月以降に出荷は落ち着いてきそう。
- ・昨年12月、本年1月が出荷のピークであり、受注は3月になり、正常に戻りつつある。
- ・国産材集成材は、大手住宅メーカー向け受注残を中心に生産量は衰えず、引き合いもそこそこある。国産材シフトは根強いものがある。米ヒバ土台は受注残の生産が今月は一杯あるが、新規引き合いはやや減少傾向にある。固定客先の需要減の影響を4月以降多少受ける傾向にある。
- ・気温上昇もあってRW集成平角の時間当たり生産量は上向きだが、3月に入り荷動きが急激に悪くなっている。
- ・出荷は今、低調。

## (構造用集成材出荷価格動向)

- ・カラマツは、合板、梱包材及び栈木等の需要旺盛で原木も依然強含み、更なるラミナ値上げ要請があるが需要見通し、競合製品の動向を勘案すれば値上げは難しい。但し当面ラミナの強含みが予想され3,4月の状況を見て再度検討。チャンスあれば値戻しは必須の状況。スギラミナ価格、数量とも徐々に緩和してきており一時期の逼迫状態からは脱した。需要も多少落ち着いておりスギKD材も失速感あるが、ラミナ価格は高止まりしており現状製品価格は維持したい。
- ・販売価格とラミナ価格が合っていないので、まだ販売価格を上げていかないと厳しい状況。
- ・本年3月になり、各社4月以降の受注が不透明なため価格を落とす所も多くなっている。生産する側は、ラミナ価格アップ、為替、物流コスト、消費税アップなど、今後製品に転嫁する必要をお客様に理解してもらわないといけない。
- ・ヒノキは、2nd QTRの価格が発効の見通し。米ヒバは2nd QTRから若干の価格見直しが実現の見込み。
- ・RW集成平角は2月同値。